

学位論文作成要領

T h e s i s G u i d e

学位論文作成要領

Thesis Guide

1. 提出できる学位論文及び提出方法

松本歯科大学学会又は大学院研究科発表会において発表された、次の各論文とする。

	学位論文として提出できる論文	提出方法
①	審査機構が完備した学術雑誌に筆頭著者として掲載された原著論文 (以下「印刷公表済の論文」という)	別刷による提出 ※Thesis (テーシス) 形式による提出も可能
②	審査機構が完備した学術雑誌に筆頭著者として掲載予定の原著論文 (以下「印刷公表予定の論文」という)	受理 (Accept) された論文のコピーを提出 掲載予定証明書 (Accept 証明書) を添付 ※Thesis (テーシス) 形式による提出も可能
③	単著としてまとめた学位論文 (以下「未公表の論文」という)	Thesis (テーシス) 形式による提出

2. 学位論文の構成

学位論文及び学位論文要旨の構成は、次のとおりとし、本要領のとおり作成する。

学位論文区分	学位論文				学位論文要旨		備考
	表紙	本文	文献	図表	表紙	本文 (日本語)	
① 印刷公表済の論文	○	別刷	—	—	○	○	※ ² 学位論文及び論文要旨はそれぞれクリップ又はステープラーでとめること
② 印刷公表予定の論文	○	※ ¹ ゲラ刷り または原稿	—	—	○	○	
③ 未公表の論文	○	○	○	○	○	○	

※¹ 掲載予定証明書 (Accept 証明書) を添付

※² 学位を授与されたのち、簡易製本したものを提出。

3. 学位論文・表紙等作成上の全般的留意点

- 1) 原則として、ワードプロセッサを使用して作成した論文を提出する。
- 2) ③未公表の論文は、日本語または英語で執筆する。
- 3) 原稿は、白色のA4判普通紙を使用する。表、図及び写真のページの場合は、専用の光沢紙の使用も可能。用紙は縦置き、横書きとし、上35mm、下30mm、左30mm、右30mmの余白をとる。
- 4) 原稿1枚あたりの文字数と行数については、次のとおりとする。

文字数	行数	1枚あたりの字数等	該当項目
30字	30行	900字	本文、文献等、要旨本文

※文字数は標準設定とし、行数のみ指定。

- 5) 日本語論文は、専門用語以外は常用漢字、現代仮名遣いを使用し平明な表現を用いる。
- 6) 印刷には黒インクを使用し、日本語の書体は11ポイントの明朝体、英語及び日本語論文中の英語引用部分は11ポイントのCenturyを使用する。
- 7) 数字は、原則としてアラビア数字を使用し、半角で印字する。
- 8) 文献リスト方式を用いる。すなわち、論文末に参考文献リストの一覧を掲載し、本文においては、当該番号のみを示す。
- 9) 論文は原則として、表紙、要旨 (日本語)、本文、文献、表、図、付図説明文の順で構成する。
- 10) 各用紙は片面印刷とし、要旨 (日本語) から、通しページ番号を付ける。

4. 表紙

- 1) 次の事項を中央上段より記載する。
 - (1) 論文表紙の右上に、「学位論文」と記載する。(12ポイント)
 - (2) 和文の題目 (16ポイント)
題目が英文の場合は、日本語訳を「()」を付して記載すること。
 - (3) 氏名 (12ポイント)
例：松本 太郎
※姓と名の間は、1スペースあける。

- (4) 所属 (12 ポイント)
例： 大学院歯学独立研究科 硬組織疾患制御再建学講座
※研究科名と講座名の間は、1 スペースあける。
- (5) 指導教員氏名 (12 ポイント)
例：(主指導教員：塩尻 次郎 教授) ※指導教員の氏名は、カッコ「()」でくくる。
- (6) 学位申請論文の表記 (12 ポイント)
例：松本歯科大学大学院歯学独立研究科博士 (歯学) 学位申請論文
- (7) 英文の題目 (14 ポイント)
- (8) 英字氏名 (11 ポイント)
例：Taro Matsumoto
- (9) 英字所属 (11 ポイント)
例：硬組織疾患制御再建学講座：Department of Hard Tissue Research, Graduate School of Oral Medicine
顎口腔機能制御学講座：Department of Oral and Maxillofacial Biology, Graduate School of Oral Medicine
健康増進口腔科学講座：Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Oral Medicine
- (10) 指導教員氏名 (11 ポイント)
例：(Chief Academic Advisor：Professor (又は Associate Professor) Jiro Shiojiri)
- (11) 学位申請論文の英字表記 (11 ポイント)
例：The thesis submitted to the Graduate School of Oral Medicine, Matsumoto Dental University for the degree Ph.D. in Dentistry
博士 (臨床歯学) は、Ph.D. in Clinical Dentistry
博士 (学術) は、Ph.D. in Science

表紙作成例

	↑		↑	
		50 [≒] 程度		学位論文
		↓		
←40 [≒] 程度→	○○○○○○○	論文題目	○○○○○○○	←40 [≒] 程度→
				○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
松本 太郎				
大学院歯学独立研究科 硬組織疾患制御再建学講座 (主指導教員：塩尻 次郎 教授)				
松本歯科大学大学院歯学独立研究科博士 (歯学) 学位申請論文				
○○○○○○○○○・・Title・・○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
Taro Matsumoto				
Department of Hard Tissue Research, Graduate School of Oral Medicine (Chief Academic Advisor：Professor Jiro Shiojiri)				
The thesis submitted to the Graduate School of Oral Medicine, Matsumoto Dental University, for the degree Ph.D. in Dentistry				
		↑		
		40 [≒] 程度		
		↓		

- 2) 題目は、論文の内容を的確かつ簡潔に表現したものであること。
原則として略語の使用は避け、正式名称で記す。
- 3) 英文題目は、冠詞、前置詞、接続詞及び慣用の特殊語を除き、頭文字を大文字、以下を小文字で記す。
また、ハイフンでつながる複合語は、ハイフンの後は小文字で記す。

5. 本文 (③未公表の論文)

- 1) 本文の項目は、原則として「緒言」、「実験材料及び方法 (症例)」、「結果」、「考察」、「結論」あるいは「総括」の順に記載する。(14 ポイント、センタリング)
- 2) 各項目は次の順に細分し、順に最初の 1 画をあけて記載する。

「緒言」等の大項目には、番号等を付けない。

1、2、3、……

1)、2)、3)、……

(1)、(2)、(3)、……

①、②、③、……

a、b、c、……

a)、b)、c)、……

(a)、(b)、(c)、……

3) 略語を使用する場合、初出で正式名(フルスペル・アウト)を記し、その後に()に略語を表記する。

4) 本文で文献を引用する場合は、その右肩に片括弧で、本文中に出てきた順に番号をつける。

例:「松本¹⁾ら……」「……と提唱されている²⁾」

5) 本文中の著者名は、2名までは姓を書き、それより多い場合は最初の著者の姓のみとし、その後ろに、「ら」または「et al」をつける。

6) 英単語は、できる限り行の終わりで二分しないようにし、やむを得ない場合は、その単語の音節で区切り、ハイフンをつける。

7) 外国の人名、地名、物質名などは原語を用いる。ただし、人名及び固有名詞は、最初の1字を大文字、他は小文字で表す。日本語化しているものは、片仮名で表す。

8) 動植物、微生物などのラテン語名は、イタリック体で、日本語名は片仮名で表す。

9) 年号は原則として西暦を用いる。西暦以外の年号を用いなければならないときは、西暦年号をその後に括弧書きで記載する。

10) 数字はアラビア数字を用いるが、数字を含む名詞、形容詞、副詞(例: 十二指腸、三角形など)は漢数字とする。

11) 数量の単位は、原則として国際単位(SI)系を使用する。

例: 長さ nm、 μ m、mm、cm、m、km など

例: 質量 pg、ng、 μ g、mg、kg など

例: 体積 μ l、ml、l、あるいは mm^3 、 m^3 など

例: 温度 $^{\circ}\text{C}$ (摂氏)、 $^{\circ}\text{K}$ (華氏) など

例: 時間 s(秒)、m(分)、h(時) など

12) 歯式の記載方法

(1) 本文中の表記は、上下顎、左右側、歯種の順とする。

例: 上顎右側第一大臼歯

(2) 理解の補助のため、できるだけ歯式記号を付記すること。

(3) 歯式の表記は、Zsigmondy/Palmer 式の歯式表記法(以下歯式記号と略す)を使用する。

例: 上顎右側第一大臼歯 (6 |)

(4) ブリッジなど表現が難しい場合は、歯式記号表記のみでもよい。

例: |③4⑤⑥

(5) 図・表中の表記は、できるだけ、歯式記号を用いる。

(6) 題目には原則として歯式記号を用いない。

13) 使用した薬品、動物、器具などの後に、そのメーカー名などを記載する。

例:「……は手術用顕微鏡(OMS-70、Topcon)下で行った。……」

14) 謝辞、その他の特記事項は結論の末尾に付記する。

6. 文献

1) 文献は、本文末に一括して、引用順に記載する。

2) 文献の記載方法

(1) 文献は、引用順に一連番号を付して次のとおり記載する。

① 雑誌の場合は、著者名(発行年) 表題、雑誌名、巻(号は通巻ページのない場合のみ記載)、ページ(はじめ-おわり)を記す。

a. 著者が複数の場合もすべて記載する。

b. 欧文雑誌の略名にピリオド(.)は用いない。

c. 雑誌の略名は、その雑誌の指定する略名を使用する。

例1: Norkus RG, White NS, Thomas RF and Schulhof J (1975) Applications of a lateral compression clamp in the management of mandibular fractures. Oral Surg 39: 2-13.

例2: Kawasaki K and Featherstone JDB (1997) Effect of collagenase on root demineralization. J Dent Res 76: 588-95.

例3: 長谷川博雅(2003) 表層拡大型腫瘍の臨床病理学および分子生物学的特徴—大腸腫瘍の側方増殖型腫瘍—. 松本歯学 9: 1-10.

② 単行本の場合は、著者名(発行年) 書名、版数、ページ(引用したページのはじめ-おわり)、発行所名、発行都市名を記す。

例: 花沢 鼎(1932) 歯科病理学, 5版, 382-96, 歯科学報社, 東京

③ 訳本の場合は、著者名（訳者1名、他、発行年）：書名、ページ（引用したページのはじめ～おわり）、発行所名、発行都市名。

例：Graber TM（中越忠男，他訳，1976）：グレーバー 歯科矯正学理論と実際（上），365-71，医歯薬出版，東京。

3) インターネット資料を引用する場合は、資料の名称、資料が掲載されているサイトの正確なアドレス、それを利用した日付を記載する。

7. 表、図

1) 原則として、データを図と表に重複して記載しない。

2) 図表は本文とは別に、一表、一図ごと1枚ずつにまとめる。本文には図表が入る位置を示す。

3) 図表中のフォントサイズは、本文と同じか、その2～3ポイント程度小さいものまでを限度とし、明確な読みやすい文字で表現されているものとする。

4) 表、図は、次のように通し番号をつけ、本文の最後に綴じる。

(1) 表

和文の場合 表1、表2……

英文の場合 Table 1, Table 2, ……

(2) 図及び写真

和文の場合 図1、図2……

英文の場合 Fig. 1, Fig. 2, ……

5) それぞれに表題をつけ、単位を明記する。

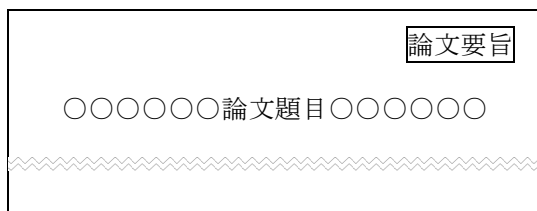
8. 学位論文要旨

1) 学位論文要旨は、要旨本文に表紙をつけて左上をクリップ又はステーブラーでとめる。

2) 学位論文要旨の表紙は、学位論文の表紙と同様に作成すること。

なお、表紙の右上は、「論文要旨」と記載する。(12ポイント)

例：



3) 学位論文の表紙、学位論文要旨の表紙の題目は、一字一句同じで、字体（斜字等）、英文の大文字・小文字など、全て必ず一致させる。

4) 学位論文要旨の本文は、日本語または英語で作成する。ただし、英語の場合は和訳を添付する。

5) ページ番号を付ける。

6) 学位論文要旨の本文は、900～1800字（用紙2枚以内）程度にまとめる。

9. 電子ファイルの作成

学位論文原稿をPDFファイルで、学位論文要旨原稿をWordファイルにて提出する。

10. 学位論文等の公開

学位授与後の学位論文等は、松本歯科大学リポジトリを利用してインターネット上へ公開する。